

103-270

問題文

23歳男性。幼児期に喘息と診断され、総合病院の呼吸器内科でテオフィリンが処方され、継続的に服用している。最近、体調を崩し、近所の内科を受診したところ、マイコプラズマ肺炎と診断され、以下の薬剤が投薬された。

服用を始めて2日後、男性は夜中に眠れなくなったので、薬剤情報提供書を薬局に持参してかかりつけ薬剤師に相談した。

(処方)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. シプロフロキサシン錠 200 mg | 1 回 1 錠 (1 日 2 錠) |
| | 1 日 2 回 朝夕食後 7 日分 |
| 2. カルボシステイン錠 500 mg | 1 回 1 錠 (1 日 3 錠) |
| アンブロキソール塩酸塩錠 15 mg | 1 回 1 錠 (1 日 3 錠) |
| チペピジンヒベンズ酸塩錠 20 mg | 1 回 1 錠 (1 日 3 錠) |
| | 1 日 3 回 朝昼夕食後 7 日分 |
| 3. モンテルカスト錠 10 mg | 1 回 1 錠 (1 日 1 錠) |
| | 1 日 1 回 就寝前 7 日分 |

問270

相談された薬剤師は、テオフィリンとの薬物相互作用による副作用を疑い、内科医に疑義照会した。その際、薬剤師が変更を提案すべき薬剤はどれか。1つ選べ。

1. シプロフロキサシン錠
2. カルボシステイン錠
3. アンブロキソール塩酸塩錠
4. チペピジンヒベンズ酸塩錠
5. モンテルカスト錠

問271

前問における薬物相互作用の機序として正しいのはどれか。1つ選べ。

1. CYP1A2の阻害
2. CYP3A4の誘導
3. 有機カチオントランスポーターの阻害
4. P-糖タンパク質の阻害
5. キレート形成

解答

問270：1問271：1

解説

問270

問271 とまとめて解説します。

問271

テオフィリン継続使用中の男性です。テオフィリンといえば、気管支ぜん息薬、キサンチン誘導体です。気管支が広がって楽になる薬といった程度が浮かべばよいと思わ

れます。また、過去問から、**CYP1A2** で代謝される薬 であることは 思い出したいポイントです。

シプロフロキサシンは、ニューキノロン系の抗菌薬です。DNAジャイレース阻害薬です。＊CYP1A2 阻害が知られている薬 です。

カルボシステイン、アンブロキシソールは、共に 去痰薬です。

チベピジンヒペنز酸は、非麻薬性中枢性鎮咳薬です。

モンテルカストは、LT受容体拮抗薬です。喘息に用いられます。

以上より、問270 の正解は 1 です。

問271 の正解は 1 です。

類題 ，